ランチョンセミナー7

11 月 16 日（日）11:30-12:30　第 1 会場（2F スノーホール B）

共催：日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

グラム陰性桿菌の薬剤耐性を紐解く～CRE の耐性機構と検出の最前線～

座長：茂呂　寛（新潟大学医歯学総合病院 感染管理部）

演者：中村竜也（京都橘大学 健康科学部臨床検査学科）

薬剤耐性グラム陰性桿菌の増加は、近年の臨床現場における重大な課題である。耐性機構は多岐にわたり、β-ラクタマーゼ産生に加え、外膜透過性低下や薬剤排出ポンプ亢進、標的酵素の変異などが複雑に関与している。これらの理解は、検査戦略や抗菌薬選択において重要である。本セミナーでは、グラム陰性桿菌における主要な耐性機構を概説し、とくにカルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）に焦点を当て、代表的なカルバペネマーゼの分子機構と特徴を示し、表現型検査や遺伝子検出法を含めた検出戦略を最新の知見をもとに整理する。また、自動同定感受性検査装置「BD フェニックス」のカルバペネマーゼスクリーニング機能を活用した検出データを紹介する。CRE の早期検出および耐性機構推定において高い信頼性と実用性を示しており、検査室における初期対応や臨床への情報提供において有用である。薬剤耐性菌への対応は、検査と診療の密接な連携を要する。本講演が、その理解と実践の一助となることを期待する。